




# 「北まるnet」の導入背景と情報共有



北見市医療福祉情報連携協議会  
代表副会長 今野 敦

2012.11.27

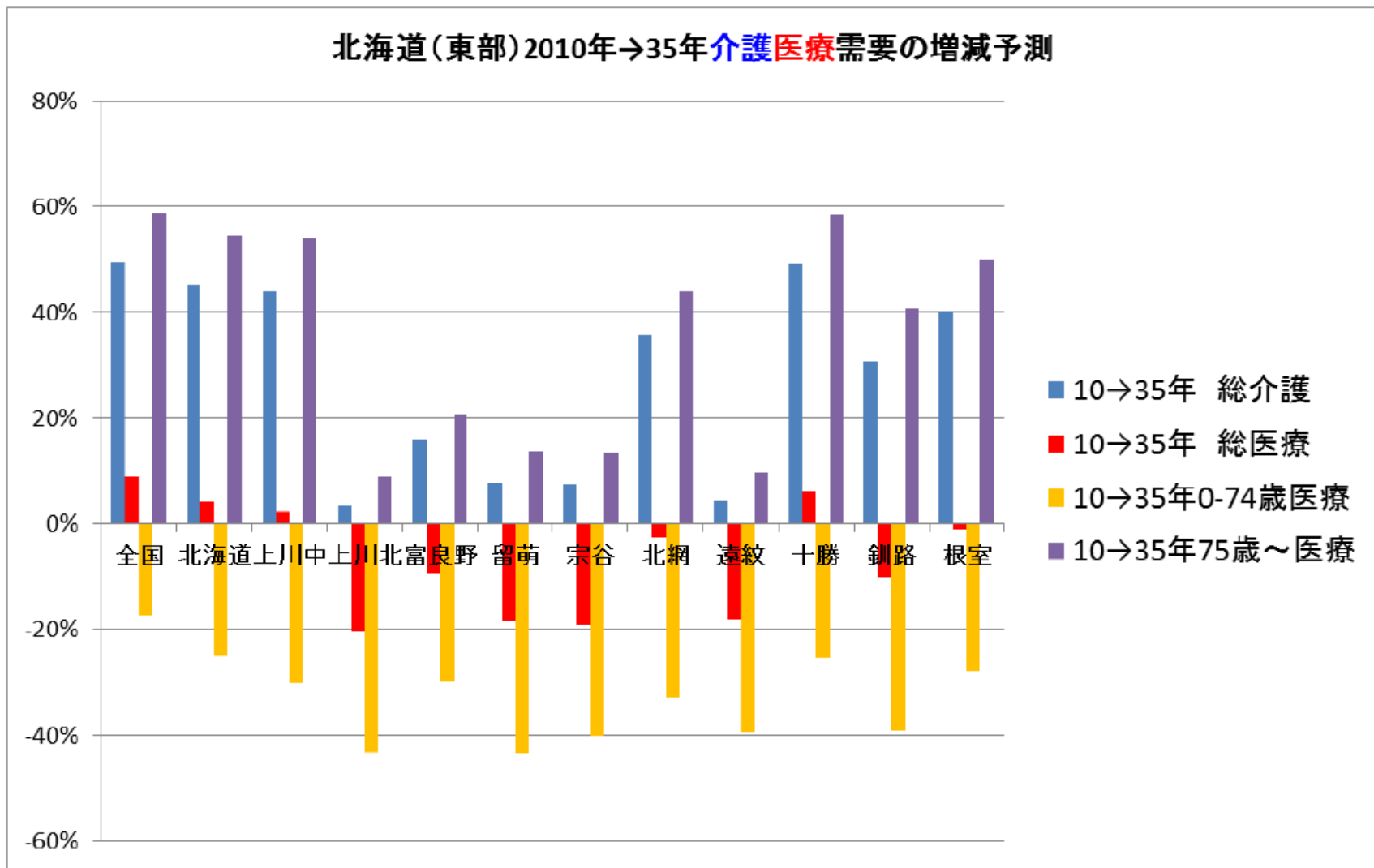
# 背景

- 医療の技術的進歩と専門分化
- 超高齢社会：医療と介護需要の増加
- 地域における医療資源の不足
- チーム医療の多様性と変化
- 慢性疾患に対する医療者の取り組みの変化
- 医療保険と介護保険との再融合
- 必要書類の激増
- チームカンファレンス
- 医療安全確保の義務化等 . . . . .

# 北見市の高齢化率等(2012.10.31現在)

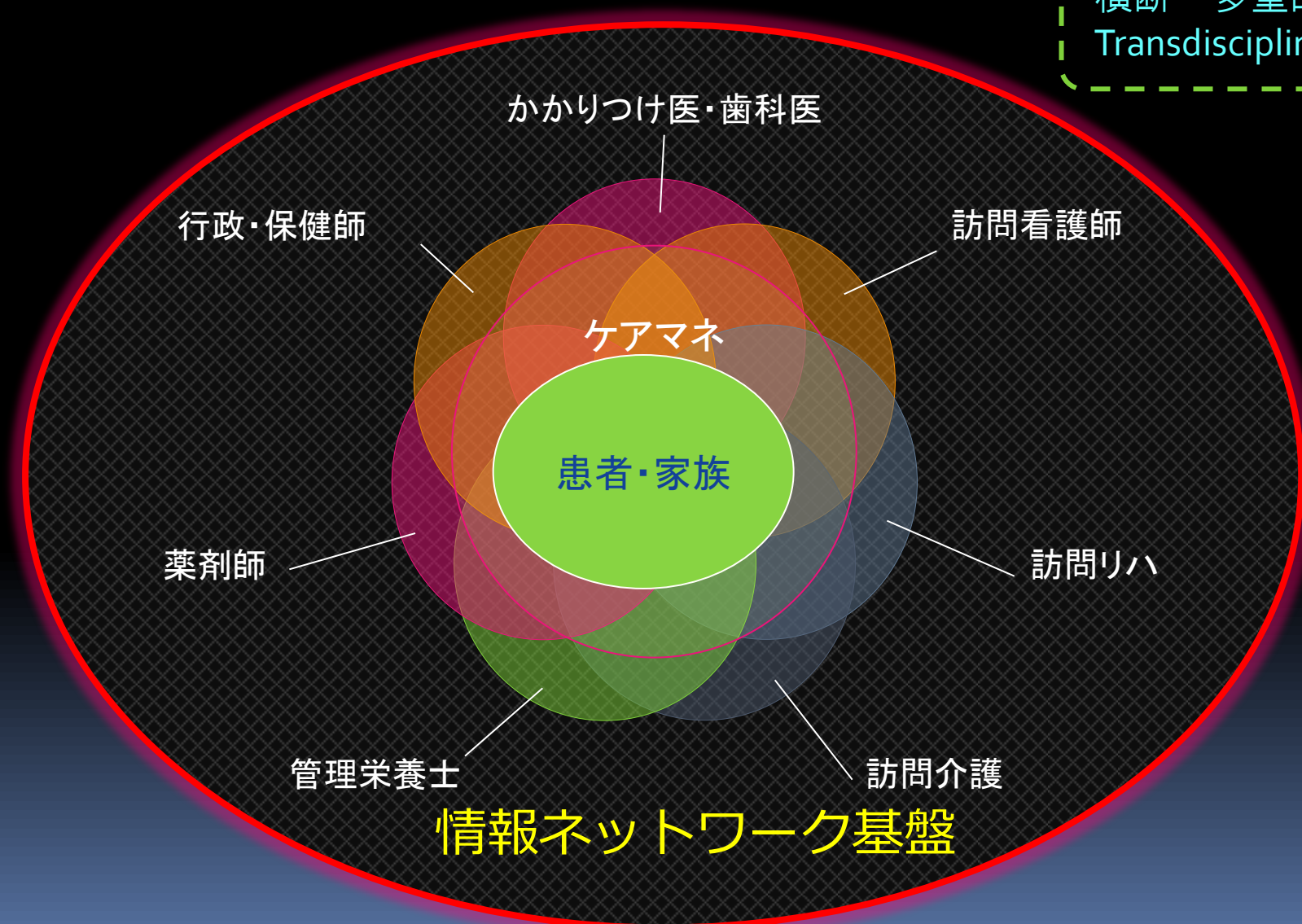
- 北見市の人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は昨年12月末現在**26.6%**で、4人に1人。前年比0.8ポイント増加。75歳以上の割合も**13.5%**で、8人に1人。
- 100歳以上は**60名**(男性10名、女性50名)

図 1-7 北海道（東部）2010年→35年介護医療需要の増減予測

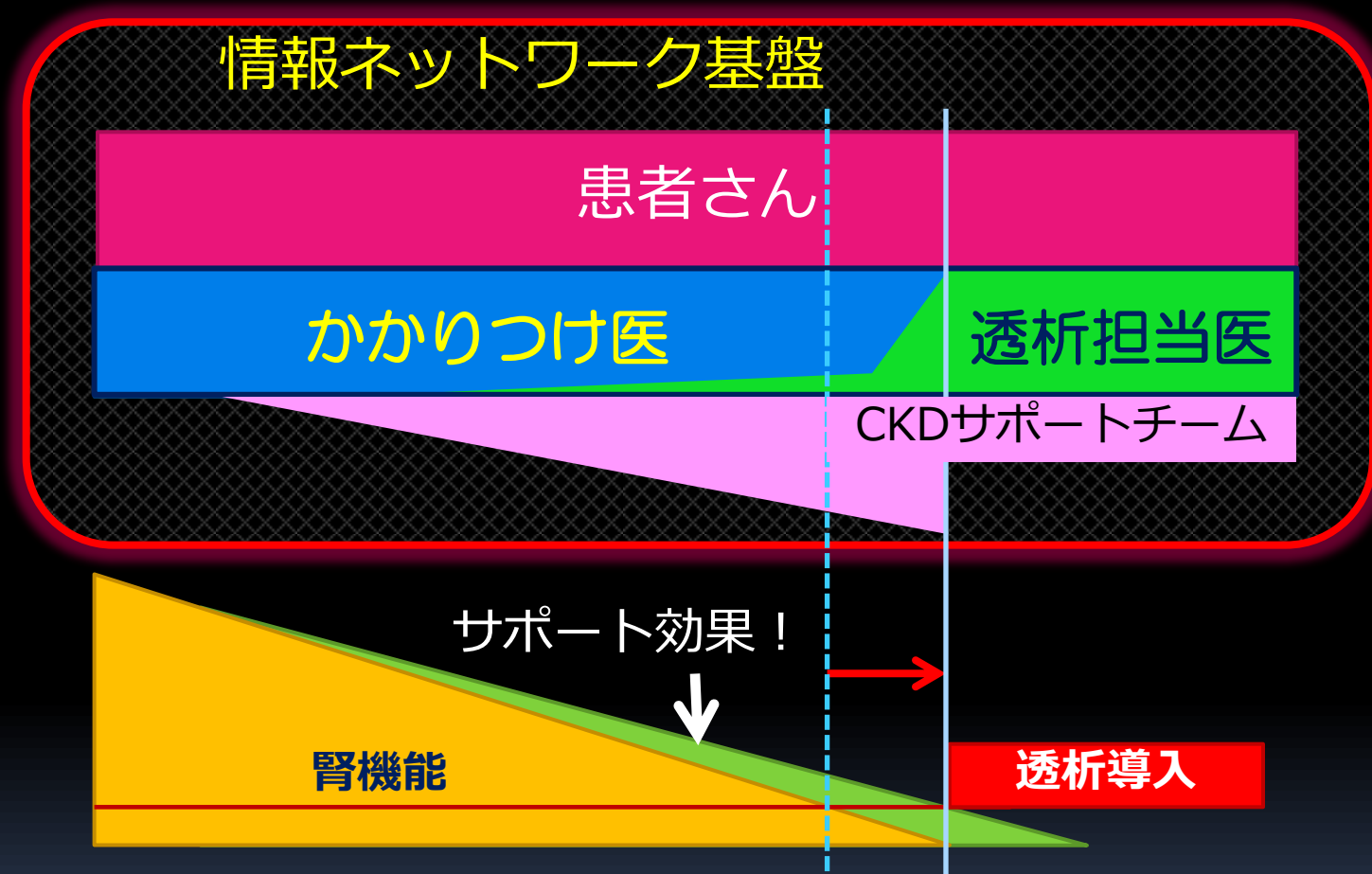


# 情報共有が進んだ慢性期チーム医療


横断・多重的  
Transdisciplinary




# “CKDサポートチーム”



CKDサポートチームは栄養士・看護師・保健師・薬剤師・医師等により構成され、食事・運動・生活習慣等の行動変容を強力にサポートし、疾患の進行を抑制を目指します。



個別の医療機関・施設ごとの対応  
から地域包括ケアシステムでの対応へ



# 包括的慢性疾患医療チーム

- 包括的慢性疾患医療チームが有効に機能するためには、患者情報のきめ細かな共有が必須。
- ICTの活用を通して、個人情報保護に最大限の注意を払いつつ、**効果的な疾患対応ができる詳細な情報共有を実現する事が重要。**



# 投薬情報共有：“電子化お薬手帳”

- 投薬情報の共有：重複・相互作用チェック
- 薬剤師への情報集約：よりの確な服薬指導
- 副作用情報の一元管理：副作用の把握が容易
- 救急時の利用：的確な診断・治療への補助

→ 安全な投薬・迅速な疾患対応の実現

# 健診から始まる自己管理サポート

- 主治医（チーム）と患者さんとの密接な連携基盤
- 診察結果・指導内容・メディカルスタッフからのアドバイスの共有システム
- 患者さんからの情報入力と主治医（チーム）からのフィードバックの双方向システム

→ コンコーダンス(concordance)の実現へ

# 「北まるnet」にご理解とご協力を

- 「北まるnet」は脳卒中を中心とした、急性期から、回復期・生活期までの治療・リハビリに関する情報データベースとして本年10月より本格稼働を開始致しました。
- 今後、慢性疾患のみならず、健診の段階からの情報共有を円滑に進める事によって、地域全体の疾患を減らし、地域の健康増進に寄与できるシステムへと拡張予定です。